

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672100189
法人名	有限会社 一幸
事業所名	グループホーム みどりの郷
訪問調査日	平成 19 年 8 月 7 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4672100189		
法人名	有限会社 一幸		
事業所名	グループホーム みどりの郷		
所在地	鹿児島県揖宿郡額娃町上別府4627 (電話) 0993-28-2250		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16-7		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年10月23日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	12 人, 非常勤 0 人, 常勤換算14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	74 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	みどりクリニック ひまわり歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩半島の南端で広大な畑や海のある見晴らしのよい、明るい環境の下地元の利用者が多く、清潔な住居と美味しいバランスのよい食事、歌や踊り、おやつ作り、農作業など職員と共に暮らせるホームである。医療面のサポートもあり安心である。さらにホーム機能を活かし地域密着型サービスを深めることを期待する。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し職員全員で話し合っている。運営理念は分かりやすく掲示しており、啓発活動にも活用している。利用者のなじみのものも少しずつ増えており、活動意欲を触発する物品も増えてきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合っており、自己評価をしている。家族や地域にも評価の意義を説明している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回8~9名のメンバーにより報告、意見交換をしており、地域の防災体制の検討やホームの理解、交流の機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム便りでの報告、面会時の話し合い、敬老会やお花見に参加してもらって意見交換をしている。運営推進会議にも家族代表が出席している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の入居者が多く、近くの商店や、ふるさと訪問、知人との話や墓参りなどを行い、地域での畑仕事などや自治会での防災訓練をしている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加えて「住み慣れたこの地で地域の皆さんと共に暮らしたいね」と状況の変化に応じた理念を新しく作っている。		新しい理念を誰でもわかるように掲示する事が望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の内容を具体的に理解しており、地域での夏祭り参加やふるさと訪問、お墓参り、地域住民との会話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が自治会の代表であり、地域の防災訓練に参加している。保育園の運動会やマラソン大会の応援や園児の訪問もある。又、地域の踊りや歌のボランティアもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでおり、改善計画シートを作成して質の向上に向けて話し合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回確実に実施しており、事業所の実態報告や活動状況を話し合っている。防災体制を検討している。昼食会等も行い、交友を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は以前より深まってきており、サービスの質の向上につながっているが、事業所からの積極的な働きかけが少ない。		事業所特有の知識や実態を地域住民に還元するなど地域の自治会総会などで話すなど、広報活動を積極的にすることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年7～8回作成し、近況を写真付きで知らせたり、ホームからのお知らせをしている。面会時に話し合ったり、必要時電話で連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが年間行事のお花見や敬老会に家族に参加してもらい、話し合っている。運営推進会議にも家族代表に参加してもらい意見を聞いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去一年間の継続勤務職員は20名で全員常勤勤務者となっている。全職員が明るいピンクのエプロンを着用しており、馴染み易く話しやすい雰囲気である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育はマニュアルがあり、手順書にそって業務と一緒に教育している。年間計画を作成しており、研修受講の報告を全員している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム協議会(40施設)に加盟しており、交流や勉強会、施設見学を行っており、職員は交代で参加している。(例えば口腔ケア・管理栄養士による講義など)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居者が多く、家族のみの見学となっている。		入居予定者にも入居前に見学してもらい他の入居者の状況や場の雰囲気に馴染める工夫が望ましい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごし、支え合い学ぶ姿勢を心がけており、話を聞いて特技を活かす支援をしている。(例えば切り干し大根作り・サツマイモ作りと食べ方等)		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの過去の体験や思い出・希望をフェイスシートで把握しており、本人本位の支援に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直している。又、状態の変化に応じて見直している。		安定しているようでも毎日1回程度の話し合いをして本人・家族・関係者の意見やアイデアを取り入れて早期対応する事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の医療機関との連携体制をとっており、看護師による24時間オンコール体制もある。又、要望に応じてふるさと訪問や選挙支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族との話し合いでかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて本人の状況に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や定期的な医療支援は行っている。救急対応マニュアルも作り、救急処置の勉強会などもしている。緊急時の連絡体制はある。個人に対する具体的な話はしていない。		できるだけ早い時期から本人・家族の意向を聞き関係者間の対応や方針を繰り返しかえし確認することが望まれる。又、確認書を作成することが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なわないように言葉かけや対応には配慮している。(トイレ誘導・食べこぼし等)個人情報の取り扱いは細心の気遣いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事・入浴・昼寝など本人ペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは手伝ってもらいながら、旬の食材や好みのものを話し合い、職員と一緒に楽しみながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴できる。拒む人には週1回は入浴してもらい清拭や更衣は行っている。温泉に行ってもらうこともある。		
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特技を活かし、人の役にたちたいという気持ちを尊重した場面づくりをしている。農園を借りてサツマイモ作りをしたり、洗濯物を畳んだり、歌詞を見ながら歌ったり踊ったりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭は広く芝生があり、すぐ外に出られるようになっている。近くの商店での買い物やふるさと訪問・墓参りなど支援している。家族への報告が不足している場面がある。		家族へ外出している場面の写真や屋外での活動を報告して屋内だけの生活でないことを報告することが望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵を掛けていない。車椅子で外出傾向の入所者には見守り・声かけをしている。近くの商店や農作業中の近隣の人の協力をもらっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、避難訓練をしている。避難訓練マニュアルが作成してあり話し合いがある。地域の防災訓練にも参加している。非常食の常備はない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立により旬の食材を使い作り方の工夫がされている。好きなもの・状態・習慣も考慮している。カロリーバランスもよい。水分摂取量は1500mlを心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井には天窓があり、大きな一枚板のテーブルに安心して寄りかかったり、居眠りをして居心地のよさが伺える。ソファ・畳の部屋には障子があり、大きな人形が座っている。七夕を飾ってあり短冊に願いごとが書かれている。すべて清潔にしてある。		昔のなじみの品物が置いてあるとちょっと家庭的になると思われる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常備のペット・箆筒・棚などは家庭的であり、布団カバーは楽しい柄で暖か味があった。家族の写真や手づくりの暦・置物などがあり、安心して暮らせるように配慮してある。家族が宿泊を希望すれば共用空間の畳の部屋を利用できるよう布団も用意してある。		